



馬耳東風

先日、車でラジオを聞いていると「サードプレイス」なる私には聞きなれない言葉が出てきた。ファーストプレイスが家庭で、セカンドプレイスが職場で、家庭や職場ではない第3の居場所とのことである。1991年米国の社会学者レイ・オルデンバーグが「The Great Good Place」の著書で提唱したとのことである。とびきり居心地の良い場所なら是非とも行ってみたいものである。

家庭はもちろん心安らぐ場所であるが、配偶者や子どもに対して一定の責務とストレスが生じる。職場は経済基盤を支える場所であるが、そこでの人間関係や目標達成に大きなプレッシャーとストレスを受ける。特にこれらのストレスが現代社会では顕著になっていることから、ストレスのない居心地の良いサードプレイスを持つことが重要とのことである。そのような場所として以下の八つの条件をあげている。①特定の個人や団体、政治組織や宗教組織に属していない中立的な場所、②社会的地位の高低や年齢、性別に関係がない平等な場所、③人同士の会話が楽しめる場所、④近づき易く親しみ易く、毎日でも行きたくなる場所、⑤心地良い時間を過ごせる仲間が揃っている場所、⑥きらびやかで贅沢でない目立たない場所、⑦常に陽気な雰囲気で満たされている場所、⑧自宅から徒歩圏内にあり、気軽に立ち寄ることが可能な場所。

これだけの条件を満たす場所が簡単に手に入るだろうか？ 私流に解釈すると、気心の知れた仲間と談笑する近くの喫茶店がサードプレイスの第一候補である。とは言っても自宅の周辺には仲間がいなく、口下手な私が新

たな仲間を作るのも容易ではない。碁、将棋、麻雀、カラオケ等の趣味を持つ人はサードプレイスを持ちやすいだろうと羨ましく思う。実際に、賭け麻雀ではなく単に麻雀を楽しむ会があると出かける友人がいる。私の趣味は、ゴルフと登山であり、先ず場所が自宅より遠く、体力を使い安価でないため毎日行くわけにいかず、オルデンバーグが唱える条件に合致しない。しかし、所属するゴルフクラブは上記①②を満たし、ラウンドしながらの会話が弾み、新しい多くの友人ができる等楽しい場所である。短いパットを外したり、OBを打ったり、池ポチャをしたりとミスを連発することもあるが、素晴らしい1打が打てれば全てのミスを忘れることができ、バーディを取れば皆から祝福され、私にとってはとびきり居心地の良い場所である。また、昨年から再開した登山は、黙々と歩く時間が長く、まして単独登山の場合は会話を楽しむことはできないが、途中で出会う見知らぬ人との挨拶に心が和む。そして登頂した時の満足感とはとびきりである。あちこちの山を登るので特定の場所ではないが、山も私にとってのサードプレイスである。

ところで昨今、子どもの居場所がないと問題視されている。朝や夕方に校庭を開放し子どもの居場所を提供する学校がニュースになる時代である。特に共働きの家庭が増え、子どもが家に一人でいる時間が心配されている。共働きの増加に学童保育所が追いつかないのが一因ともなっている。私が子どもの頃は友人と近くの神社、寺、道路等で暗くなるまで遊んだものだが、今や子どものサードプレイスを社会全体で提供しなければならない世の中になったのかと嘆ずるのは私一人だろうか。

(平)